

施策		単位	実績値 H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	目標値 R元年度	達成状況	第2期戦略 への位置付 け	所管課 数値確認課
基本目標1 山北町における安定した雇用を創出する												
数値目標	①製造品出荷額等（4人以上事業所）を65,000百万円に増やす。	百万円	62,325	61,912	61,871	57,638	58,219	58,219	65,000		○	商工観光課
	②企業立地奨励措置の適用件数を3件に増やす。	件	1	0	1	1	1	1	3		×	商工観光課
	③山北ブランドを15件認定する。	件	0	18	20	23	21	20	15	達成	○	商工観光課
基本的方向と主な施策	(1) 工業の振興 ・先端産業等優良企業の誘致を進めます。 ・山北町商工会・金融機関との連携を再構築し、相談窓口と支援体制を整備し、創業支援を進めます。 (2) 農業の振興 ・担い手となる経営農家の認定と育成を図ります。 ・茶、果樹などの地場産品を材料とする加工品の開発を支援します。 (3) 山北ブランドの推進 ・山北ブランド認定制度を運用し、特産品の販路拡大に努めます。 ・人材の有効活用により特産品開発に努めます。 ・魅力ある山北町商品券となるよう検討します。 (4) 土地の有効活用 ・山北町の観光拠点としての再生を図るため、既存観光施設やハイツ&ヴィラなかがわ跡地・中学校跡地の利活用を図ります。					総合分析（町による1次評価） 数値目標において3項目中2項目で目標を達成できなかったが、KPIにおいては5項目中3項目で目標を達成した。 目標を大きく上回る結果となった項目もあり、引き続き雇用の創出につながる事業について展開していく必要がある。						
基本目標2 山北町への新しいひとの流れをつくる												
数値目標	④転入者数を333人に増やす。	人	303	160	194	204	189	246	333		○	定住対策課
	⑤観光入込客数を1,800千人に増やす。	千人	1,598	1,699	1,600	1,641	1,569	1,498	1,800		○	商工観光課
	⑥観光ボランティアガイド登録者数を5人に増やす。	人	0	0	0	1	1	1	5		○	商工観光課
基本的方向と主な施策	(1) 定住総合対策の推進 ・やまきた定住相談センターとして各種定住相談のワンストップサービスを進め、町民や関係団体、企業等との連携による定住施策を推進し、町内外にわかりやすく情報を発信します。 ・住まいづくり応援制度などによる定住支援を進めます。 ・移住希望者に対し、お試し住宅を提供し定住を促進します。 ・やまきた定住協力隊と連携し、田舎暮らし希望者の定住を促進します。 ・空き家バンク事業の拡充を図ります。 ・定住者間の交流の場づくりを進めます。 ・民間活力を活用した住宅開発や基盤整備を適切に誘導・促進します。 ・ハローワークと連携して雇用情報を提供します。 (2) 観光の振興 ・外国人観光客も視野に入れ、観光資源の活用を図ります。 ・洒水の滝や河村城址歴史公園周辺の環境を整備し、楽しく憩える場所づくりを進めます。 ・大野山山頂の景観を生かした活用を図ります。 ・都市住民と水源地域に住む町民との上下流域自治体間交流等を推進します。 ・森林セラピー体験ツアーの実施による健康づくり事業を展開することで「未病を治す」取り組み等を進めます。 ・スポーツ自転車を活用した誘客事業を展開することで「未病を治す」取り組み等を進めます。 ・鉄道公園に保存されている蒸気機関車D52の活用を図ります。 (3) 観光ネットワーク化の推進 ・豊かな自然環境を活用し、ウォーキングやハイキング、登山道など多彩な町内周遊コースづくりを進めます。 ・森林と清流を散策する遊歩道の整備や、歩いて楽しめる歴史、文化の道の整備を進めます。 ・南足柄市の21世紀の森や松田町の最明寺史跡公園、静岡県小山町の明神峠に続くルートの整備など、近隣の観光資源と連携した広域観光ルートのネットワーク化を図ります。 ・県と連携して不老山ハイキングコースやみつば岳ハイキングコースを整備します。 ・東山北駅、丸山、洒水の滝、山北駅を結ぶ新たなハイキングコースを整備します。 (4) 観光情報の発信 ・魅力的なホームページを構築するとともに、SNS等を活用しながら、最新の観光情報の発信に努めます。 ・広域行政組織と連携を行い、広域的な観光情報の発信を強化します。					総合分析（町による1次評価） 数値目標において全3項目、KPIにおいて13項目中11項目が目標値に達しておらず、進捗は大きく遅れている。 現在はコロナ禍の影響を受け、観光事業などでは大変厳しい状況にあるが、その一方で、感染症を受けた国民の意識や行動の変化に伴う地方への移住などの関心は高まりを見せており、新しい生活様式を踏まえた新しい人の流れをつくる事業について推進していく必要がある。						
基本目標3 山北町の若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える												
数値目標	⑦合計特殊出生率を1.59に上昇させる。	率	1.21	1.27	0.96	0.90	0.90	0.94	1.59		○	保険健康課
	⑧町民の子育て環境や支援の満足度（やや満足及び満足）を30%に増やす。	%	15.7	—	—	—	42.6	—	30	達成	○	福祉課
	⑨子育て支援センターの年間利用人数を14,000人に増やす。	人	13,867	13,250	11,607	9,305	9,806	7,930	14,000		○	福祉課
基本的方向と主な施策	(1) 結婚や出産への支援 ・若者の出会いの場づくりを支援し、定住促進につなげていきます。 ・出産祝い金や紙おむつを支給するなど、若い世代の出産や子育てを支援します。 (2) 子育て支援の充実 ・子育て支援センターを活用した育児相談や育児サークル活動を支援します。 ・山北町の実情に即し、山北幼稚園とわかば保育園を連携させた認定こども園を開設します。 ・保育に係る経済的負担を軽減するため保育料を減額します。 ・放課後の児童の居場所づくりのため、放課後子ども教室の充実を進めます。 ・安全で安心して子どもが過ごすことのできる放課後児童クラブ（学童保育）の充実を図ります。 ・放課後子ども総合プランの実施に向けた組織づくりや人材確保に努めます。					総合分析（町による1次評価） 数値目標において3項目2項目で目標を達成できなかったが、KPIにおいては5項目中3項目が目標を達成した。 若者世代が結婚や出産、子育てに前向きになり希望を実現できるような環境整備について、引き続き取り組んでいく必要がある。						
基本目標4 時代にあった山北町らしい地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する												
数値目標	⑩自治会加入率を90.0%に増やす。	%	85	85	85	83	83	82	90		○	企画政策課
	⑪まちづくりに積極的に参加したい人を80.0%に増やす。	%	73.5	—	—	72.2	—	—	80		△	企画政策課
	⑫あんしんメールへの登録件数を3,100件に増やす。	件	2,634	2,860	3,018	3,216	3,310	3,490	3,100	達成	○	総務防災課
	⑬消防団員を218人に増やす。	人	196	200	196	195	189	185	218		×	総務防災課
基本的方向と主な施策	(1) コミュニティ活動の活性化 ・自治会や連合自治会と連携して、自治会の加入率向上のため様々な取り組みを行います。 ・まちづくり活動を行う地域づくり委員会やNPOなどが行う、地域間交流活性化活動を支援します。 ・自治会が行う生涯学習活動や、各団体が行う生涯学習モデル事業に対する助成制度の充実を図ります。 (2) 時代にあった公共施設運営 ・老朽化が進む公共施設等の計画的な修繕や維持管理などにより、公共施設の長寿命化を図ります。 ・活用しやすい施設改修を進めるなど、生涯学習センターの機能充実を図ります。 ・生涯学習センターを核とした、地域の活動拠点のネットワーク化を進めます。 (3) 安全安心のまちづくり ・高齢期を迎えても健康で安心して生活ができるように、高齢者を地域で見守る支援体制（高齢者見守りネットワーク）の整備をします。 ・「未病を治す」取り組みの機運醸成と健康増進に向けた仕組みづくりを進めます。 ・自主防災リーダーの養成を図るため、防災に関する研修会や防災訓練などを実施します。 ・災害時の対応に関する防災講習会、防災資機材の整備や要援護者に対する支援など、自主防災組織の育成・強化を図ります。 ・消防団協力事業所制度の活用など町ぐるみによる消防団員の確保に努めます。 ・防災行政無線放送やあんしんメールを活用して犯罪情報等を随時配信します。 (4) 交通対策の充実 ・路線バスでは十分な対応ができない地域は町内循環バスを運行し、運行エリアやダイヤの充実を図ります。 ・清水、三保、高松地区の公共交通不便地域対策として、タクシー運賃の助成を行い、生活交通支援の充実を図ります。 ・地域主導で運行している共和福祉バスの運行を支援します。 ・高齢者の移動支援体制の整備をします。 ・駅員無配置の山北駅に切符販売スタッフを配置するとともに、山北町の紹介コーナー等を設置し、利用者が安心して利用できる取り組みを進めます。 ・鉄道のまちやまきたを生かしたまちづくりを推進します。					総合分析（町による1次評価） 数値目標において4項目中3項目、KPIにおいて12項目中9項目が目標値に達しておらず、進捗は大きく遅れている。 現在はコロナ禍において、地域における様々な活動や行事が、中止や規模縮小せざるを得ない状況になっており、人と人とのつながりが希薄になっている中、地域においても新しい生活様式を取り入れた中で、安全安心なまちづくりなどに取り組んでいく必要がある。						

第2期戦略への位置付け
 ○ 継続(目標値の変更含む)
 △ 数値目標を変更
 × 施策を変更・削除